FFGS

取扱説明書（追補版）

ECONEX

現像廃液削減装置

XR-2000
XR-5000

＜連休時 / 計画停電時の対応＞

第 1 版

はじめに

日頃は現像廃液削減装置 XR-2000 および XR-5000 をご愛用いただき、誠にありがとうございます。
本書は、連休時および計画停電時において、お客様ご自身で実施していただきたい作業内容を説明したものです。XR-2000/5000 は、24 時間稼働状態でご使用いただける便利な装置ですが、年末年始など長期連休時には、事前に装置の対応作業を行う必要があります。また、昨今の電力事情から計画停電が実施される際にも、事前の対応が必要になります。

再稼働時にトラブルなく装置を運転するために、本書を良くお読みいただき、お客様のシステムに必要な対応作業を行なってください。
また、作業の途中でわからないことが生じたときに、すぐのこの説明書を取り出せるように、本装置の近くに保管してください。

お願いとお断り

●安全に作業いただくためにはまず、「1　安全上の注意」をお読みください。また、この説明書の内容を十分に理解するまでは、作業を開始しないでください。

●本説明書の内容と異なった使用方法や誤った操作による事故・故障については、当社の責任を外れたものと致します。

●濃縮釜のつけ置き洗浄時に排出される濃縮液および洗浄水は、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物のいずれかに該当します。これらの廃液を直接下水道または河川などに廃棄することは、法律で禁止されています。廃液を処理する場合は、貴社の排水処理施設で処理するか、または法律に従って産業廃棄物管理票を作成し（紙マニフェストまたは電子マニフェスト）、専門の廃液処理業者に処理を依頼してください。ご不明な点は、販売店または当社までお問い合わせください。

●プロセサーから排出される現像廃液および水洗水は、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物のいずれかに該当します。これらの廃液を本装置で処理しないで直接下水道または河川などに廃棄することは、法律で禁止されています。これらの廃液を処理する場合は、貴社の排水処理施設で処理するか、または法律に従って産業廃棄物管理票を作成し（紙マニフェストまたは電子マニフェスト）、専門の廃液処理業者に処理を依頼してください。

●プロセサーの現像タンク、水洗タンク、およびフィニッシングタンクの２回目までの洗浄水は、産業廃棄物に該当します。廃液を本装置で処理しないで直接下水道または河川などに廃棄することは、法律で禁止されています。廃液を処理する場合は、貴社の排水処理施設で処理するか、または法律に従って産業廃棄物管理票を作成し（紙マニフェストまたは電子マニフェスト）、専門の廃液処理業者に処理を依頼してください。

●再生水は事前の審査により下水道に直接放流することが許可されていますが、ユーザーご自身による定期的な水質検査が必要になります。
なお各地域の下水排除基準については、各都道府県にお問い合わせください。

●濃縮釜の洗浄に使用する水（再生水）は、金魚などの飼育には使用しないでください。また花などにも与えないでください。

●本書の内容の一部または全部を許可なく複製・使用することを禁止します。

●誤字、脱字などについては、ご容赦ください。

危険防止と補足説明に関する表記

●危険を防止し、正しく安全な作業を行うために、特に大切な事項を次の２つの表記で示します。意味は次のとおりです。

⚠ 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

●より良い性能を安定して維持するために、補足的な事項を次の２つの表記で示します。意味は次のとおりです。

重要	：取扱いを誤った場合に、処理した性能に悪影響を及ぼすことが想定される場合。
注	：守っていただきたいことや、知っておいてほしいことなど、特に配慮が必要な場合。

●シンボルマークの種類

目 的	マーク	意 味
注意を促す		感電注意
		回転物注意
		高温注意
		引火性物資
		指挟まれ注意
		カッター注意
		直視注意
		注意（上記以外の注意）

目 的	マーク	意 味
行為を禁止する		分解禁止
		水場での使用禁止
		火気禁止
		禁止（上記以外の行為の禁止）
行為を指示する		電源プラグをコンセントから抜く
		アース線の接続
		保護メガネ着用
		ゴム手袋着用
		ゴムエプロン着用
		強制（上記以外の行為の指示）

目次

はじめに 3
お願いとお断り 4
危険防止と補足説明に関する表記 5
目次 6

1 安全上の注意 7

2 連休時の対応 9

2-1 作業の流れ 9
2-1-1 標準仕様の場合 9
2-1-2 送液装置仕様の場合 10
2-2 XR-2000/5000 の作業 11
2-2-1 連休前の作業 11
2-2-2 連休明けの作業 14
2-3 プロセサーの作業（送液装置仕様の場合） 17
2-3-1 連休前の作業 17
①処理液の排出 17
②処理タンクの清掃 19
2-3-2 連休明けの作業 20
①処理液の仕込み 20
2-4 中間タンクアラームの対応 21

3 計画停電時の対応 23

3-1 作業の流れ 23
3-2 停電前の作業 24
3-2-1 濃縮液の手動排出 24
3-2-2 装置の停止 25
3-3 停電復旧後の作業 26
3-3-1 装置の起動 26
3-4 対応を忘れた場合の処置 28
3-4-1 停電時の作業 28
3-4-2 復旧後の作業 29

1 安全上の注意

連休時および計画停電時の対応作業を行うときは、以下の注意事項を良くお読みいただき、正しく安全に作業を実施してください。

⚠ 警告

電源スイッチ
濡れた手で電源スイッチを操作したり、コンセントから電源プラグを抜いたり差したりしないでください。感電の恐れがあります。

液交換時の電源
プロセサーの液交換時には、必ず電源スイッチを切ってください。

電源プラグ
電源プラグにホコリなどが付着していた場合は、きれいに拭き取ってください。そのまま使用すると火災の原因になります。

⚠ 注意

電源プラグ
連休等で長期間、装置を使用しないときは、安全のため必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

保護メガネ着用
廃液を扱うときに、廃液が目に入ると刺激しますので、入らないように保護メガネを着用してください。廃液が目に入ったときはすぐに水で数分間よく洗い、その後に医師の診断を受けてください。

ゴム手袋、ゴムエプロンの着用
廃液を扱うときに、廃液が皮膚に付くと刺激する恐れがありますので、付かないようにゴム手袋、ゴムエプロンを着用してください。万一、皮膚に付着した場合は、石鹸は使用しないで、大量の水またはぬるま湯で十分に洗い流します。痛みが残る場合は、医師の診断を受けてください。また廃液を取り扱った後は、必ず手を洗ってください。

飲用禁止
濃縮釜の洗浄に使用する水（再生水）は絶対に飲まないでください。

重要

水漏れ事故

プロセサーの廃液を排出するときは、中間タンクが満杯にならないように注意してください。満杯エラーが発生してもそのまま排出を続けると、送液装置から廃液が溢れる恐れがあります。

濃縮液タンク

濃縮液の手動排出時には、濃縮液タンクが空であることを確認してください。タンクが一杯になると、処理液タンク満杯エラーが発生します。

濃縮液の排出

装置を強制的に停止するときは、濃縮釜内に残っている濃縮液を手動排出してください。排出しないと、再運転時に異常液面エラーが発生します。

2 連休時の対応

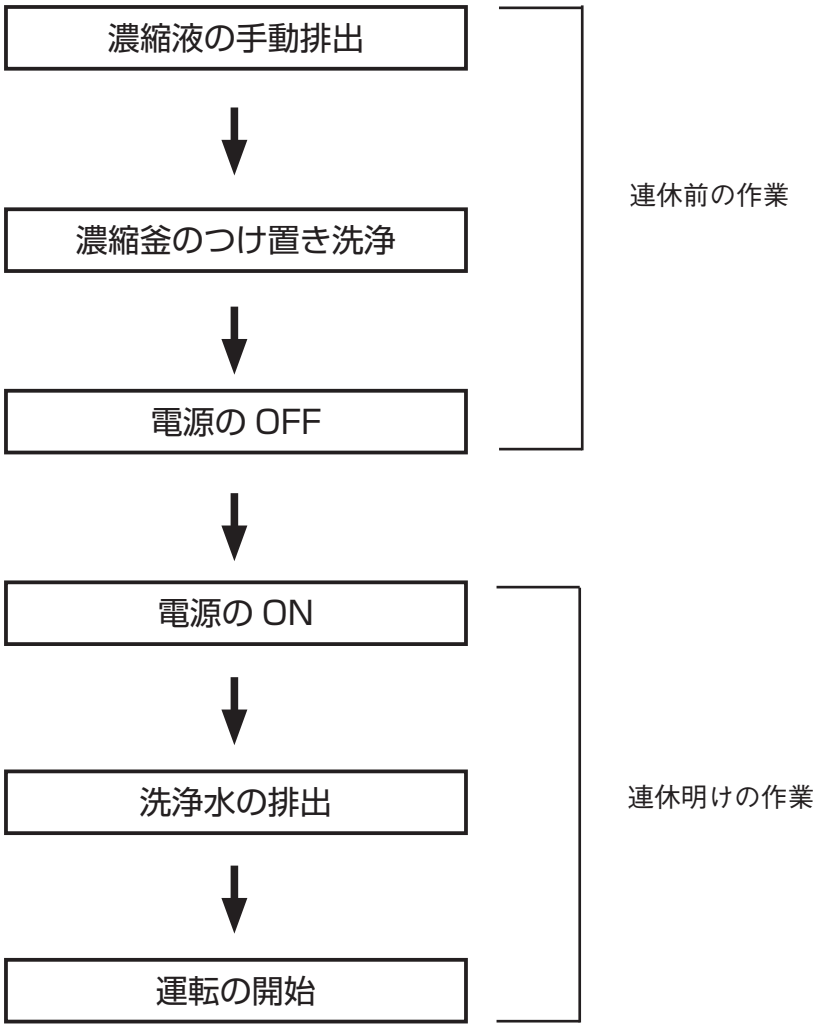
年末年始やゴールデンウィークなどの長期連休時には、思わぬトラブルを防ぐために、連休時の対応作業を実施してください。なお 4 日を超える休日の場合には、連休時の対応が必要になります。

2-1 作業の流れ

標準仕様と送液装置仕様では､作業手順が異なります。ご使用のシステムに該当する作業手順を行なってください。

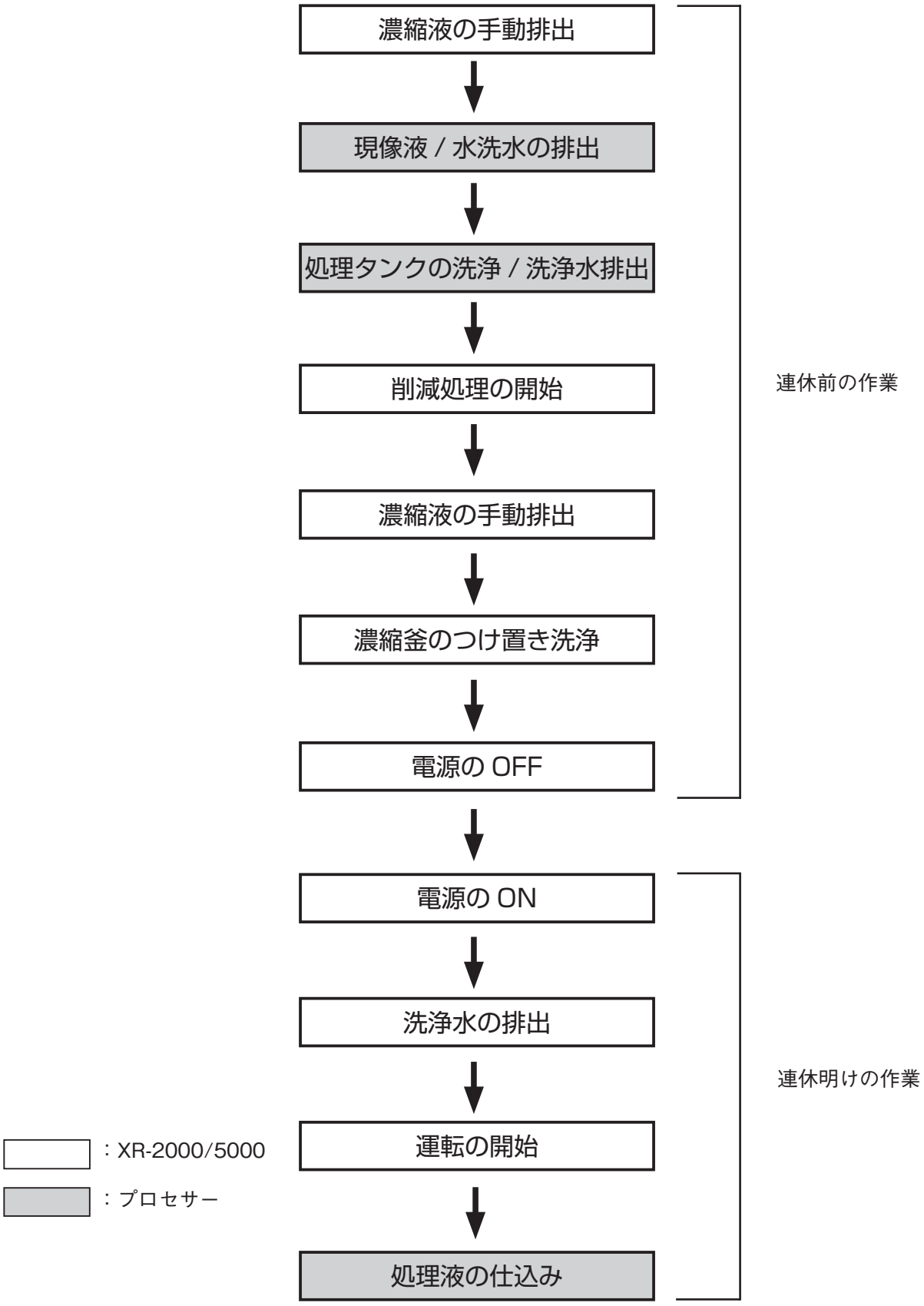
2-1-1 標準仕様の場合

XR-2000 および XR-5000 の標準仕様における、連休前 / 連休明けの作業の流れは以下のとおりです。



2-1-2　送液装置仕様の場合

XR-2000 および XR-5000 の送液装置仕様における、連休前 / 連休開けの作業の流れは以下のとおりです。



2-2 XR-2000/5000 の作業

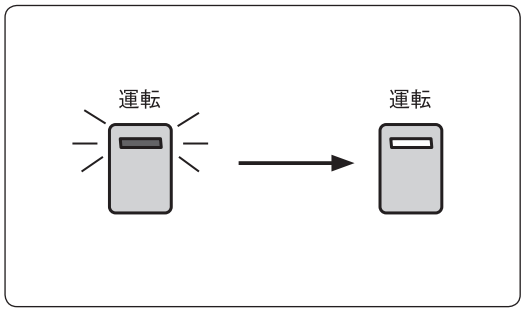
XR-2000 または XR-5000 を長期間に渡って停止する場合の、連休前と連休明けの作業について説明します。

⚠ 警告

感電注意
濡れた手で電源スイッチを操作したり、コンセントから電源プラグを抜いたり差したりしないでください。感電の恐れがあります。

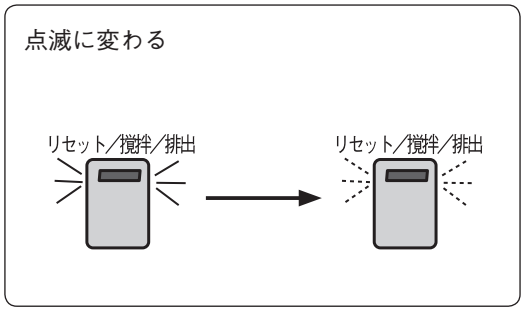
2-2-1　連休前の作業

連休前には、濃縮釜のつけ置き洗浄が必要になります。つけ置き洗浄の準備が終わったら、装置の電源を OFF にしてください。



1 「運転」スイッチを押して、装置の運転を停止します。

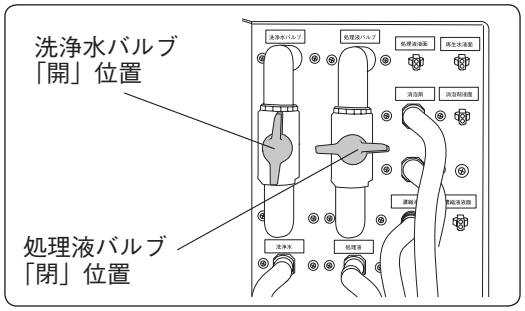
「運転」スイッチのランプが消灯します。



2 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを 2 秒以上押し続けて、濃縮液を排出します。

「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチのランプが点滅に変わり、約 1 分経過したら排出は終了です。

重要： 濃縮液タンクをご使用の場合は、タンクが空であることを確認してください。
タンクが一杯になると、濃縮液満杯エラーが発生します。



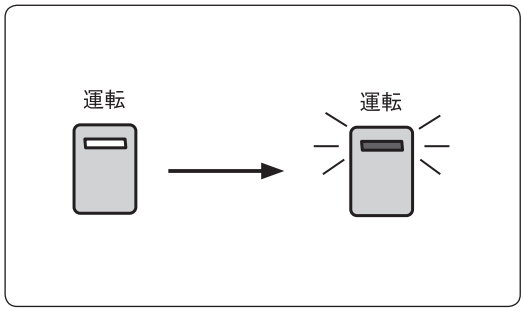
3 処理液バルブを閉じ、洗浄水バルブを開きます。

重要： 処理液バルブおよび洗浄水バルブを操作するときは、必ず運転が停止していることを確認してください。

注： バルブが左図の位置になっていることを必ず確認してください。

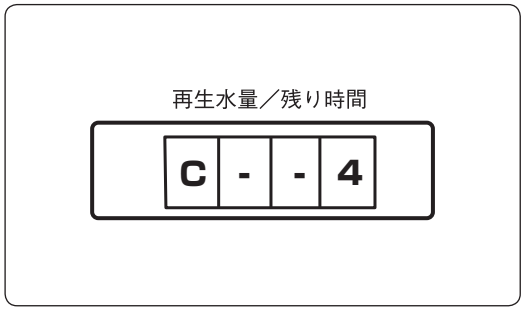
4 洗浄水タンクの水（再生水）がオーバーフローレベルまであることを確認します。

注： 不足している場合には、洗浄水タンクに水を追加注入してください。



5 「運転」スイッチを 3 秒以上押して、装置の運転を開始します。

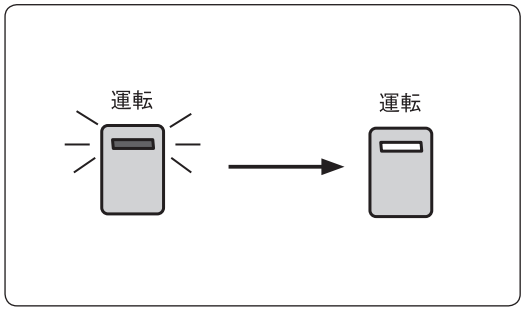
「運転」スイッチのランプが点灯します。



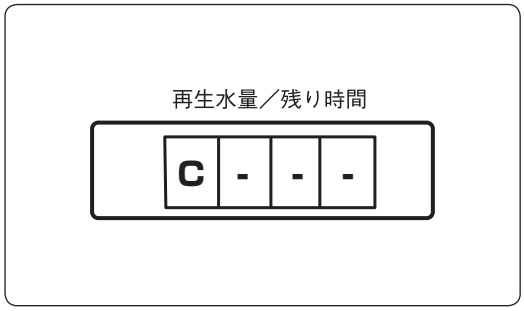
6 ディスプレイに「C - - 4」が表示されていることを確認します。

「C - - 4」は、洗浄水の吸引が開始されたことを意味しています。吸引が終わるまで表示されます。

注： 洗浄水を吸い上げるときに、エラー「E-21」が表示されることがあります。この表示は異常ではありませんので、作業を続けてください。



7 約 4 分経過すると、自動的に装置の運転が停止します。（運転ランプ消灯）。

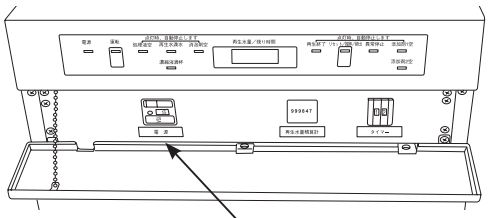


8 ディスプレイに「C - - -」が表示されていることを確認します。

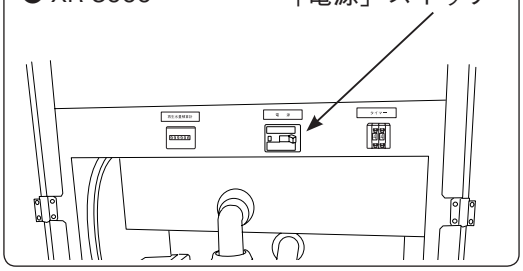
「C - - -」は、吸引が終了したことを意味しています。

注： 吸引を中止して通常運転に戻るときは、「運転」スイッチを再度押してください。また吸引中でも（「C - - 4」が表示）、「運転」スイッチを押すと、通常運転に戻ります。

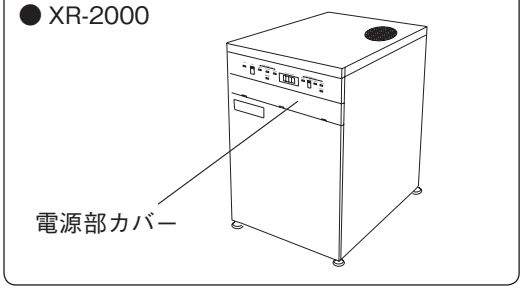
● XR-2000



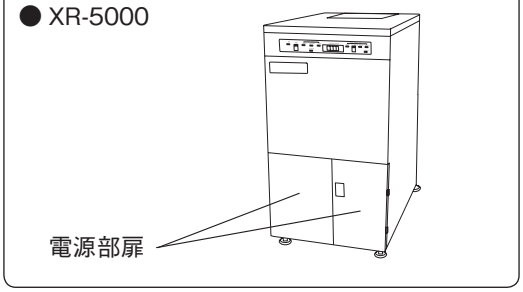
● XR-5000

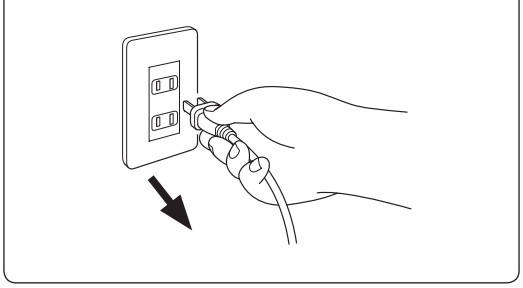


● XR-2000



● XR-5000





9 「電源」スイッチを「切」にして、電源を OFF にします。

・ XR-2000 の場合は、電源部カバーを開いて、電源を OFF にします（「電源」ランプ消灯）。

・ XR-5000 の場合は、電源部扉を開いて、電源を OFF にします（「電源」ランプ消灯）。

電源

10 電源部カバーまたは電源部扉を閉じます。

11 装置の電源プラグをコンセントから抜きます。

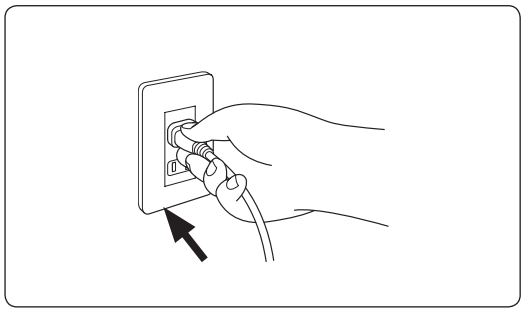
⚠ 警告

⚠ 感電注意

濡れた手でコンセントから電源プラグを抜かないでください。感電の恐れがあります。

2-2-2　連休開けの作業

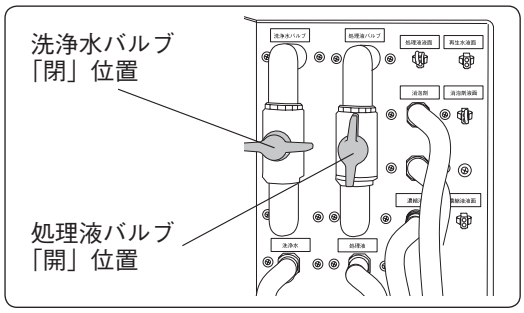
連休が明けたら、つけ置き洗浄でためておいた洗浄水を排出し、装置を起動します。



1　装置の電源プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ 警告

⚠ 感電注意
濡れた手でコンセントに電源プラグを差し込まないでください。感電の恐れがあります。

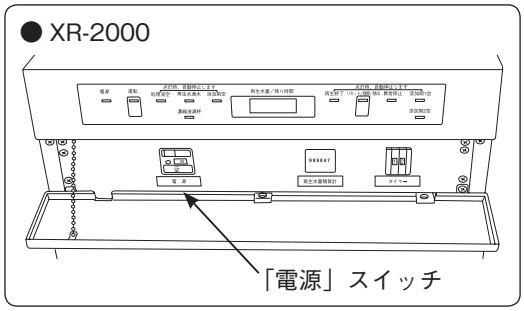


2　処理液バルブを開き、洗浄水バルブを閉じます。

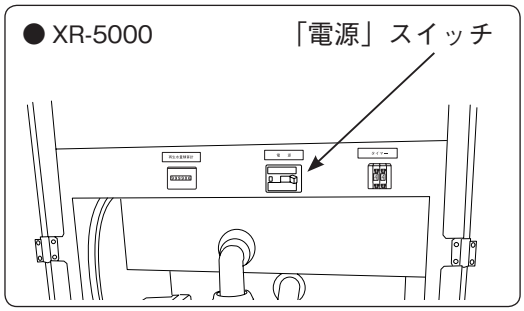
重要： 処理液バルブおよび洗浄水バルブを操作するときは、必ず運転が停止していることを確認してください。

注： バルブが左図の位置になっていることを必ず確認してください。

● XR-2000



● XR-5000

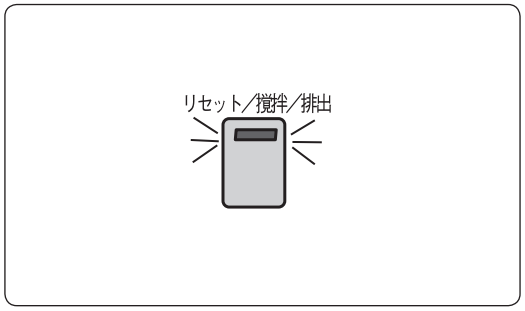


3　「電源」スイッチを「入」にして、電源を ON にします。

・XR-2000 の場合は、電源部カバーを開いて、電源を ON にします。(「電源」ランプ点灯)。

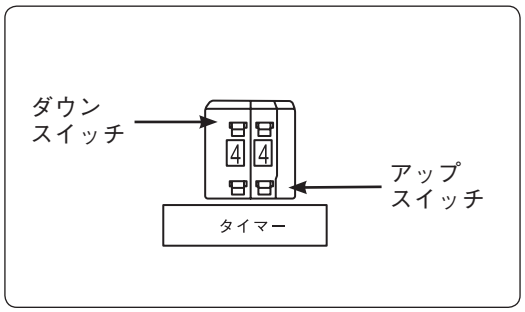
・XR-5000 の場合は、電源部扉を開いて、電源を ON にします（「電源」ランプ点灯)。

4　電源部カバーまたは電源部扉を閉じます。



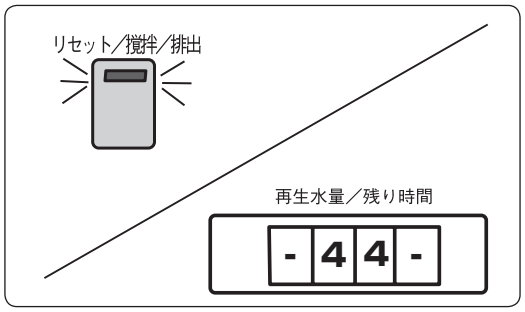
5 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを 2 秒以上押し続けて、洗浄水を排出します。

重要： 濃縮液タンクをご使用の場合は、タンクが空であることを確認してください。タンクが一杯になると、濃縮液満杯エラーになります。



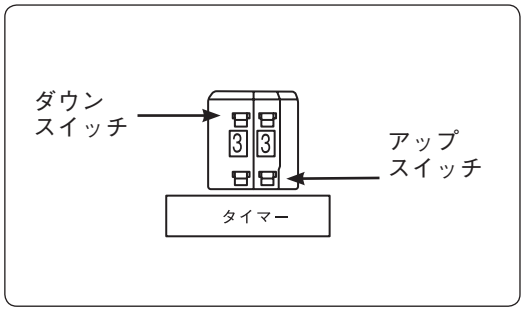
6 電源部カバーまたは電源部扉を開き、「アップ」または「ダウン」スイッチを使用して、タイマーを「44」に設定します。

注： 設定を変更する前に、初期設定値をメモしておいてください。後で再設定する必要があります。

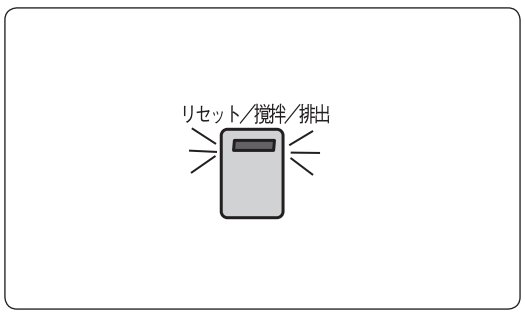


7 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを押して、設定モードに入ります。

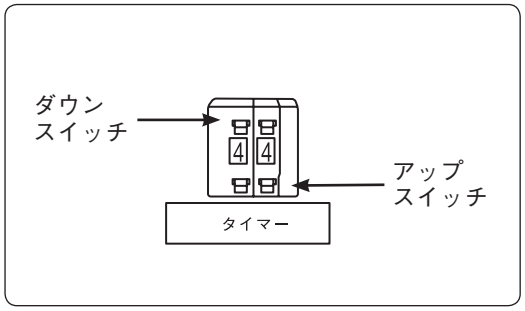
ディスプレイに「- 44 -」と表示されていることを確認してください。



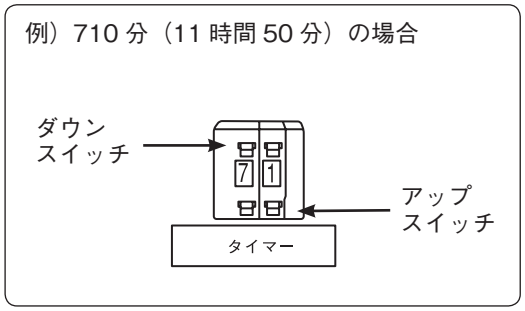
8 「アップ」または「ダウン」スイッチを使用して、タイマーの設定を「33」に変更します。



9 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを押して、エラーを解除します（ブザー音が鳴る）。

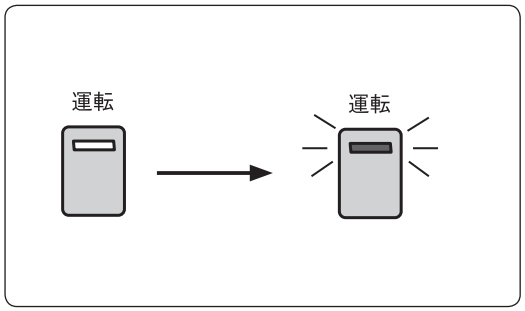


10 「アップ」または「ダウン」スイッチを使用して、タイマーを「44」に設定し、「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを押します。
これで、設定モードが終了します。



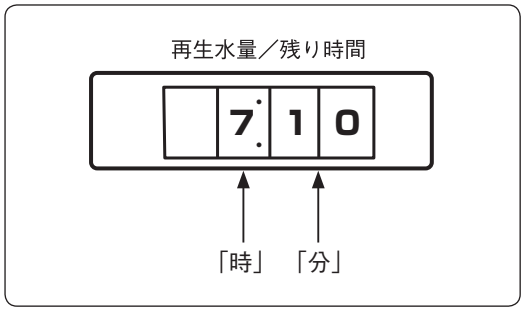
11 「アップ」または「ダウン」スイッチを使用して、タイマーを初期設定値に戻します。

> **注：** 初期設定値はユーザーごとに異なります。変更する場合は、販売店またはサービス指定店までご連絡ください。

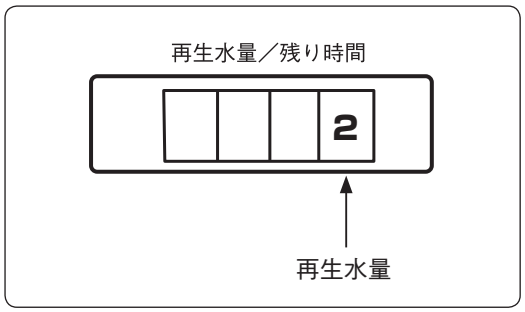


12 電源部カバーまたは電源部扉を閉じ、「運転」スイッチを押して運転を開始します。

ディスプレイに「014○」が表示されないことを確認してください。



13 操作が正常に終わると、ディスプレイは通常表示（運転時間と再生水量）に戻ります。



2-3 プロセサーの作業（送液装置仕様の場合）

連休前には、現像液および水洗水の排出と処理タンクの清掃を行ないます。そして連休が明けたら、各液を仕込んでください。

⚠警告

液交換時の電源

液交換時には、必ず電源スイッチを切ってください。

⚠注意

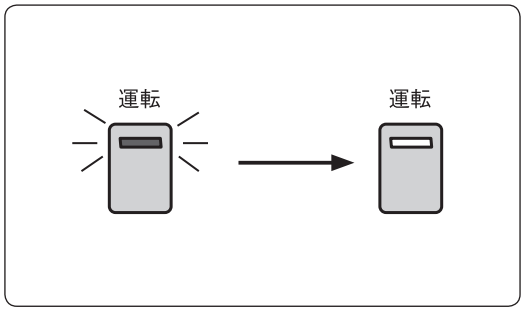
保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンの着用

液交換時には、保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンを着用してください。

2-3-1　連休前の作業

①処理液の排出

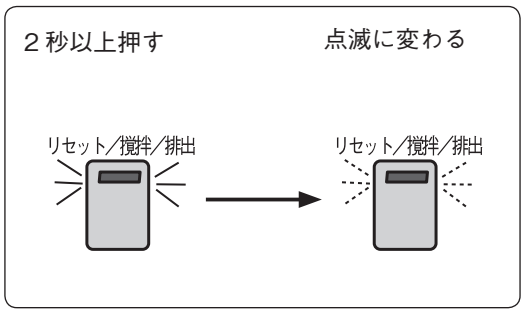
プロセサーから現像液および水洗水を送液装置に排出します。なお、フィニッシングガム液は廃液タンクに回収してください。

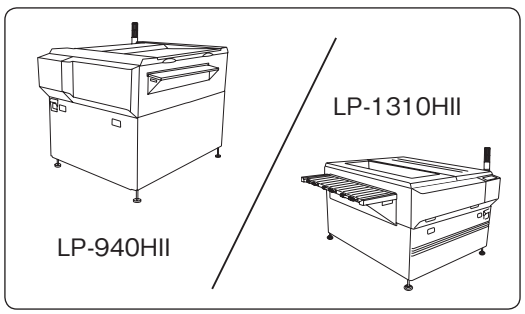


1 XR-2000 または XR-5000 の濃縮釜の濃縮液を手動排出します。

装置の運転を停止し、「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを 2 秒以上押してください。

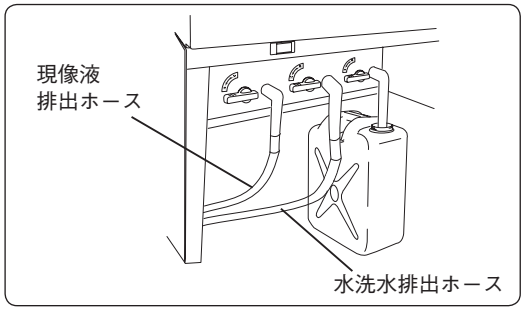
重要： 濃縮液タンクをご使用の場合は、タンクが空であることを確認してください。
タンクが一杯になると、濃縮液満杯エラーになります。





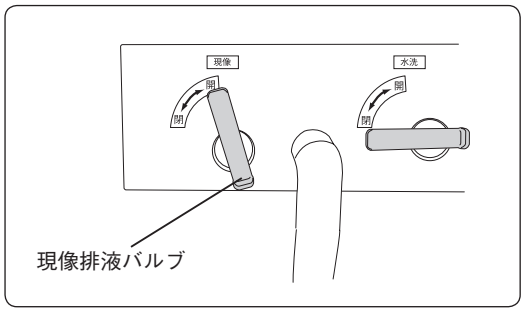
2 プロセサーの運転を停止します。

停止手順については、プロセサーの取扱説明書を参照してください。



3 プロセサーの右側面カバー（下）を取り外し、プロセサーと送液装置がホースで接続されていることを確認します。

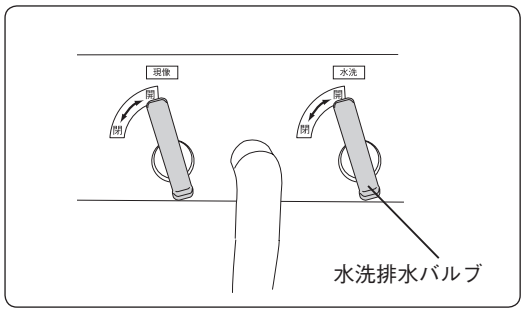
現像液排出ホース：現像排出ノズル～送液装置タンク
水洗水排出ホース：水洗排出ノズル～送液装置タンク



4 プロセサーの現像排液バルブを開いて、現像液を排出します。

LP-940HII：約 20L 排出
LP-1310HII：約 45L 排出

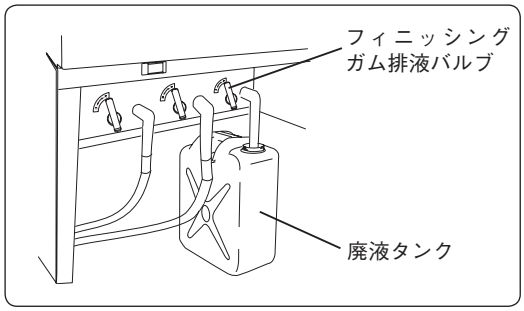
重要： 液の排出の際は、中間タンクおよび送液装置タンクが一杯にならないように、バルブで液の排出を調整してください。もし中間タンクアラームが発生したら、至急対処手順を行なってください（P21 参照）。



5 現像液を排出したら、プロセサーの水洗排水バルブを開いて、水洗水を排出します。

LP-940HII：約 4L 排出
LP-1310HII：約 9L 排出

重要： 液の排出の際は、中間タンクおよび送液装置タンクが一杯にならないように、バルブで液の排出を調整してください。もし中間タンクアラームが発生したら、至急対処手順を行なってください（P21 参照）。



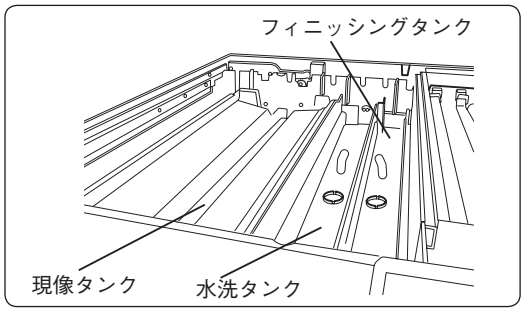
6 プロセサーのフィニッシングガム排液バルブを開いて、フィニッシングガム液を廃液タンクに回収しします。

LP-940HII：約 4L 排出
LP-1310HII：約 9L 排出

重要： フィニッシングガム液は、専用の廃液タンクに回収し、専門の廃液処理業者に処理を依頼してください。絶対に本装置で処理しないでください。

②処理タンクの清掃

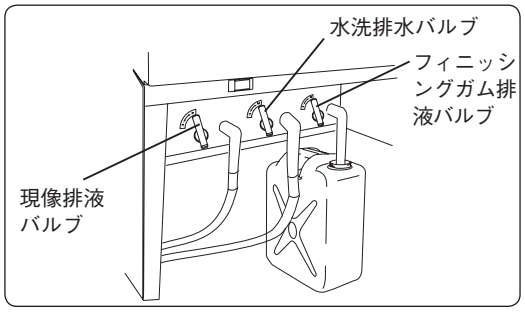
各液を排出したら、処理タンクを清掃します。処理タンクを水で洗浄後、洗浄水を送液装置に排出してください。なお処理タンクの清掃は、連休前に行なってください（清掃手順については、プロセサーの取扱説明書を参照）。



1 各液の排出が終わったら、以下の処理タンクに水を入れて清掃します。

・現像タンク
・水洗タンク
・フィニッシングタンク

必要に応じて、各部の部品を清掃してください。



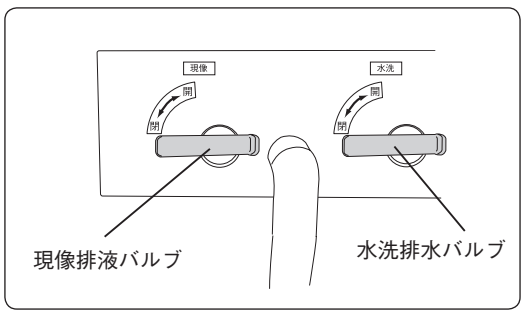
2 現像排液バルブおよび水洗排出バルブを開いて、洗浄水を排出し、削減処理が終わるまで待ちます。

現像タンク / 水洗タンクの洗浄水→送液装置に排出
フィニッシングタンク洗浄水→廃液タンクに回収

重要： 液の排出の際は、中間タンクおよび送液装置タンクが一杯にならないように、バルブで液の排出を調整してください。もし中間タンクアラームが発生したら、至急対処手順を行なってください（P21 参照）。

重要： 現像タンクおよび水洗タンクの２回目までの洗浄水は、産業廃棄物に該当します。下水などには排出しないで、必ず本装置で処理してください。

重要： フィニッシングタンクの２回目までの洗浄水は、専用の廃液タンクに回収し、専門の廃液処理業者に処理を依頼してください。絶対に本装置で処理しないでください。



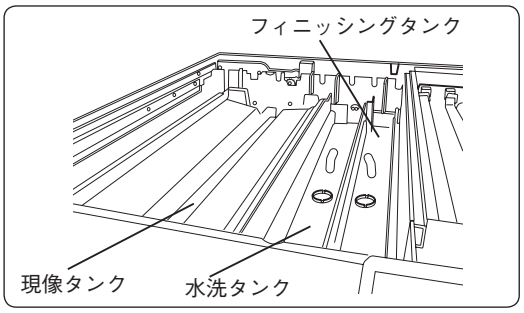
3 洗浄水の削減処理が終わったら、現像排液バルブおよび水洗排水バルブを閉じます。

4 「2-2-1　連休前の作業」（P11）の手順に従って、濃縮釜のつけ置き洗浄を行ないます。

2-3-3　連休開けの作業

①処理液の仕込み

連休が明けたら、プロセサーの現像タンクに現像液、水洗水、およびフィニッシングガム液をそれぞれのタンクに仕込みます。なお各液の仕込み前には、XR-2000/5000 を起動し、運転状態にしてください。



1　XR-2000 または XR-5000 を起動します。

起動手順については、「2-2-2　連休明けの作業」（P14）を参照してください。

2　処理タンクに各液を仕込み、プロセサーを起動します。

手順については、プロセサーの取扱説明書を参照してください。

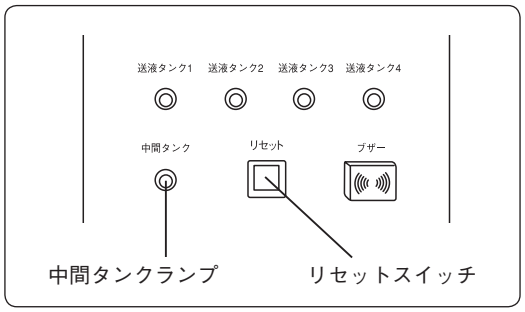
2-4　中間タンクアラームの対応

現像液および水洗水の排出時に、中間タンクが一杯になると、ブザーが鳴り、送液監視装置の「中間タンク」ランプが点灯し、送液エラーが発生します。エラーが発生すると、中間タンクに接続されているすべての送液装置が停止し、中間タンクへの送液が止まります。送液が止まったら、至急、以下の手順に従ってアラーム対処してください。

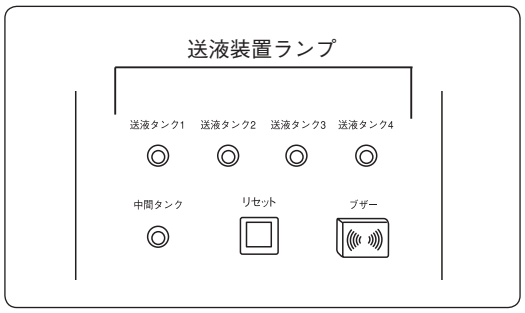
⚠ 注意

保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンの着用

アラームの対処作業では、保護メガネ、ゴム手袋、ゴムエプロンを着用してください。

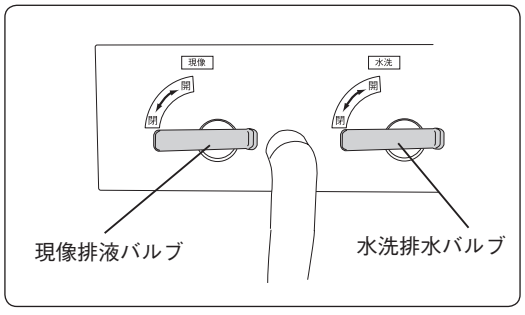


1 「中間タンク」ランプが点灯したら、「リセット」スイッチを押して、ブザー音を止めます。

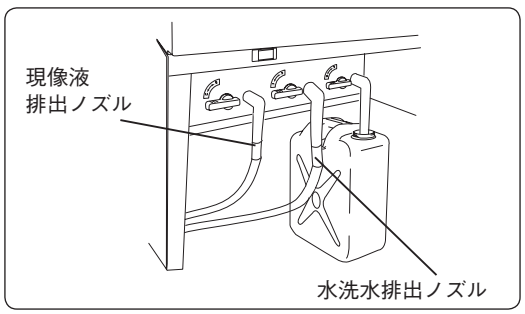


2 送液監視装置から、タンクが満杯になった送液装置を確認します。

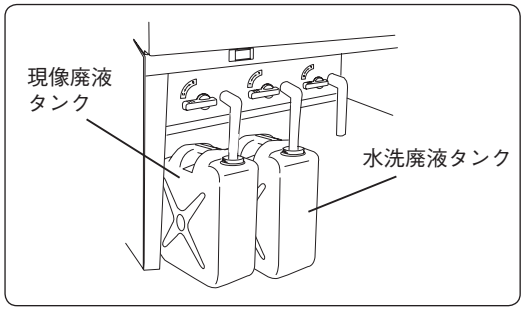
停止した送液装置のランプが点灯します。



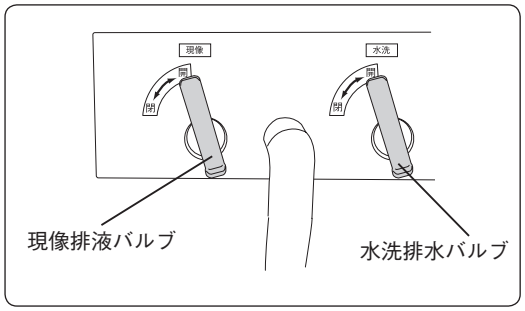
3 プロセサーの現像排液バルブおよび水洗排水バルブを閉じて、液の排出を止めます。



4 現像液排出ノズルおよび水洗水排出ノズルを取り外し、廃液回収ノズルを取り付けます。

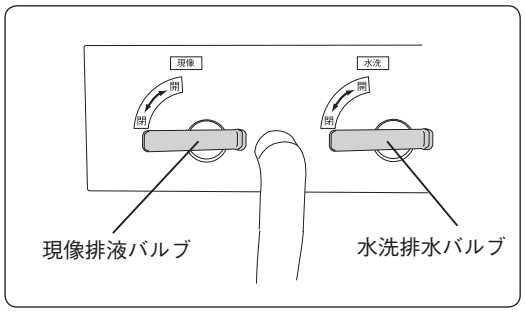


5 空の現像廃液タンクおよび水洗廃液タンクを準備し、それぞれの廃液回収ノズルの先端をセットします。

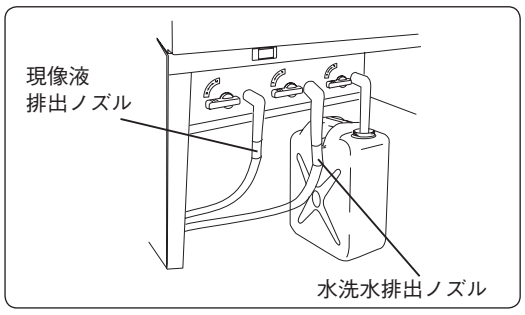


6 現像排液および水洗排水バルブを開いて、残っている液を各廃液タンクに回収します。

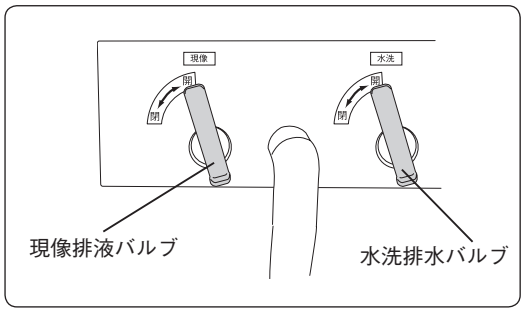
注： 廃液タンクに回収した廃液は、アラームが解決したら、中間タンクまたは送液装置タンクに注入してください。



7 「中間タンク」ランプが消灯したら、中間タンクの液面が下がったことを確認し、現像排液バルブおよび水洗排水バルブを閉じます。



8 廃液回収ノズルを取り外し、現像液排出ノズルおよび水洗水排出ノズルを取り付けます。



9 現像排液バルブおよび水洗排水バルブを開いて、送液を開始します。

3 計画停電時の対応

XR-2000/5000 が設置されている地域で計画停電が実施される場合には、事前に装置を停止し、停電に備えてください。以下に停電前と復旧後の作業について説明します。もし停電前の作業を忘れてしまった場合には、「対応を怠った場合の処置」（P28）を実施する必要があります。

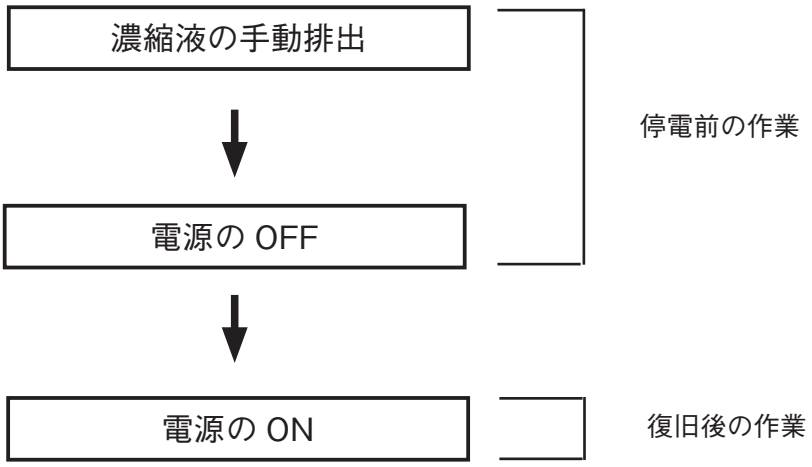
⚠ 警告

感電注意

濡れた手で電源スイッチを操作したり、コンセントから電源プラグを抜いたり差したりしないでください。感電の恐れがあります。

3-1 作業の流れ

計画停電が実施される前には、濃縮液の手動排出を行ない、電源を OFF にして装置を停止しておきます。停電が復旧したら、装置を再起動してください。作業の流れは以下のとおりです。

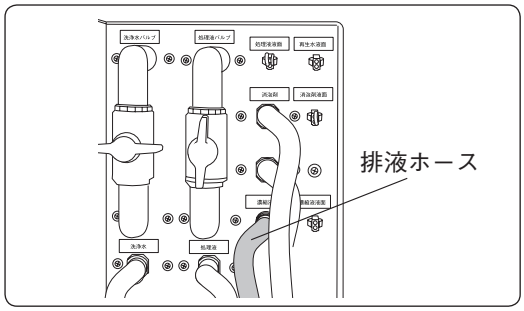


＊ 送液装置仕様の場合は、接続されているプロセサーの運転を停止し、電源を OFF にしてください。これで、送液装置の電源も OFF になります。

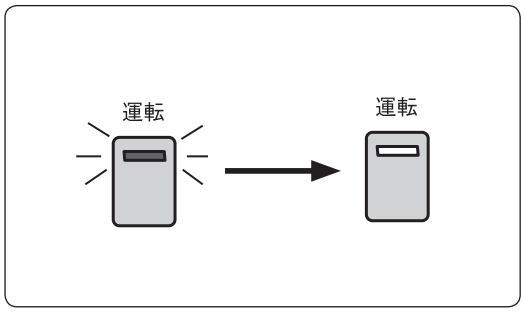
3-2 停電前の作業

3-2-1　濃縮液の手動排出

停電前には、XR-2000 または XR-5000 の濃縮釜に残っている、濃縮液を手動排出します。

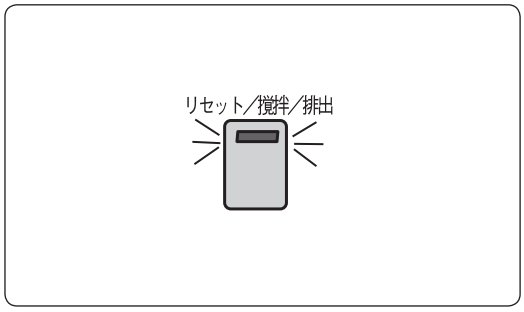


1 濃縮液タンクが排液ホースと接続されていることを確認します。

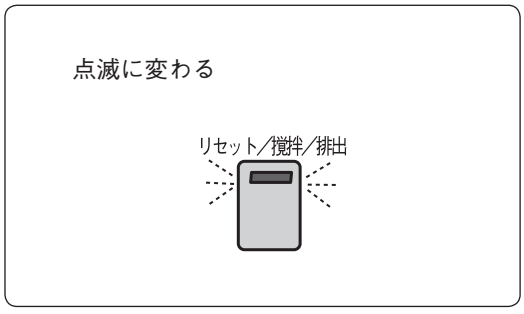


2 「運転」スイッチを押して、装置の運転を停止します。

「運転」スイッチのランプが消灯します。



3 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを 2 秒以上押し続けます。



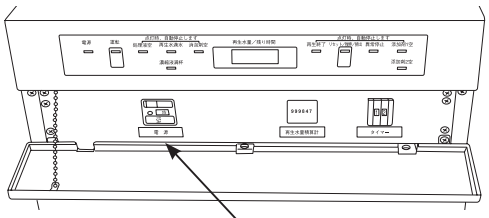
4 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチのランプが点滅に変わり、約 1 分経過したら、排出は終了です。

重要： 濃縮液タンクをご使用の場合は、タンクが空であることを確認してください。
タンクが一杯になると、濃縮液満杯エラーになります。

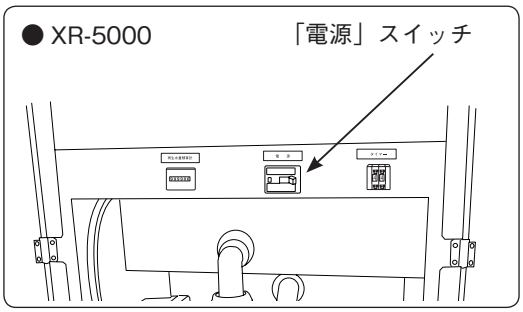
3-2-2　装置の停止

濃縮液の排出が終わったら、電源スイッチを切って、装置を停止しておきます。

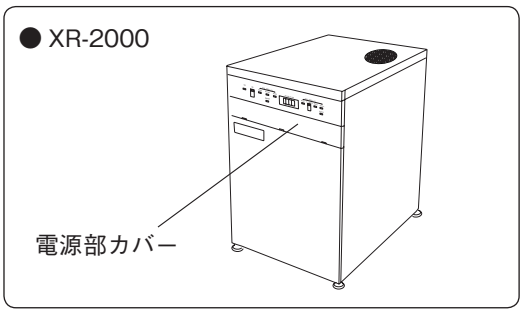
● XR-2000



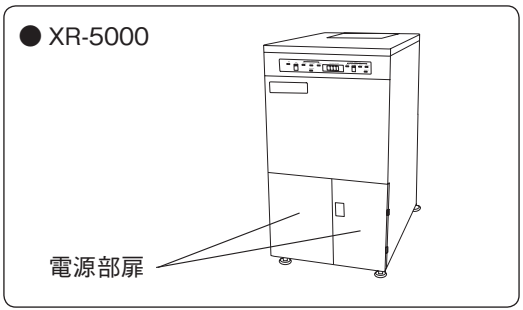
● XR-5000



● XR-2000



● XR-5000



1　「電源」スイッチを「切」にして、電源を OFF にします。

・XR-2000 の場合は、電源部カバーを開いて、電源を OFF にします（「電源」ランプ消灯）。

・XR-5000 の場合は、電源部扉を開いて、電源を OFF にします（「電源」ランプ消灯）。

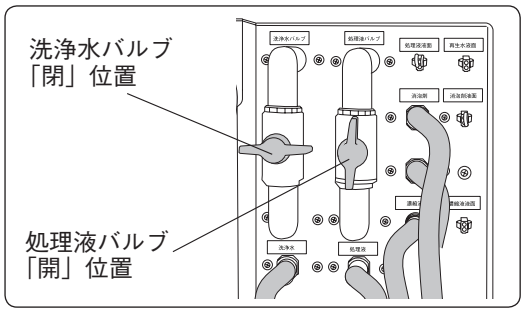
2　電源部カバーまたは電源部扉を閉じます。

3-3 停電復旧後の作業

3-3-1　装置の起動

停電が復旧したら、電源を入れて、装置を起動します。起動する前に、以下の運転準備が完了していることを確認してください。

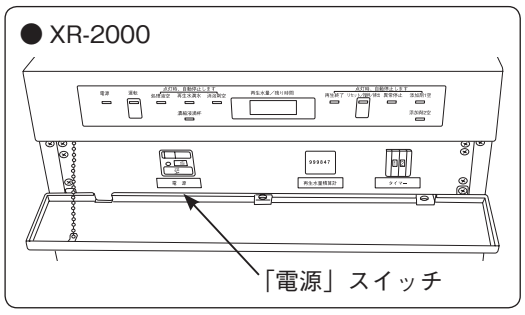
・処理液および消泡剤の準備が完了している
・送液装置 / 送液監視装置の電源が ON である（送液装置仕様）
・プロセサーが運転状態である（送液装置仕様）



1 処理液バルブが開き、洗浄水バルブが閉じていることを確認します。

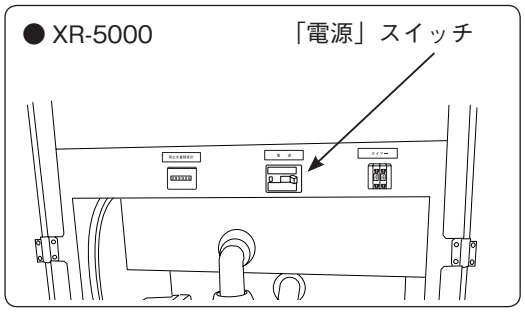
重要： 各ホースが接続口と確実に繋がれ、ホースにひび割れがないことを確認してください。液漏れの恐れがあります。

2 電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認し、電源部カバーまたは電源部扉を開きます。

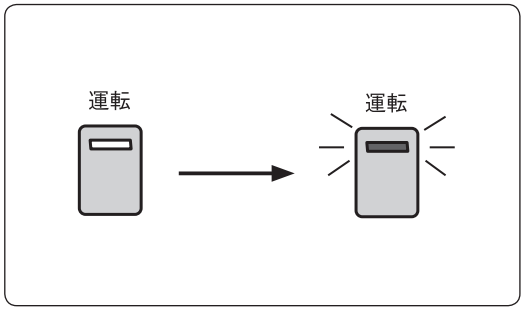


3 「電源」スイッチを「入」にして、電源を ON にします。

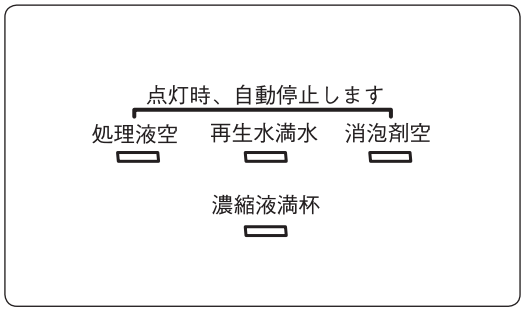
・XR-2000 の場合は、電源部カバーを開いて、電源を ON にします（「電源」ランプ点灯）。
・XR-5000 の場合は、電源部扉を開いて、電源を ON にします（「電源」ランプ点灯）。



4 電源部カバーまたは電源部扉を閉じます。

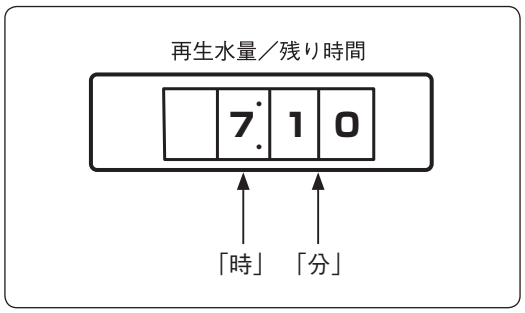


5 「運転」スイッチを押して、運転を開始します。
「運転」スイッチのランプが点灯し、装置の運転が開始されます。

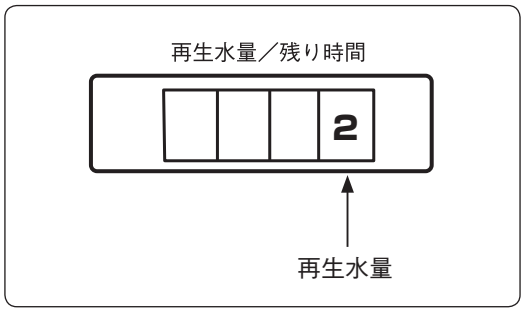


6 以下のランプが消灯していることを確認します。

・「処理液空」ランプ
・「再生水満水」ランプ
・「消泡剤空」ランプ
・「濃縮液満杯」ランプ



7 操作パネルのディスプレイに「再生水量」と「運転残り時間」が交互に表示されることを確認します。



8 これで、装置が自動的に廃液の処理を開始します。
約 20 分経過すると、再生水の生成が開始されます。

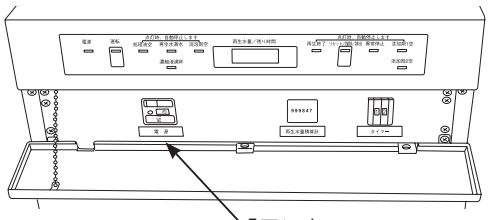
3-4 対応を忘れた場合の処置

計画停電時に停電前の作業を忘れてしまった場合や、計画停電ではない突然の停電の場合の作業手順について説明します。

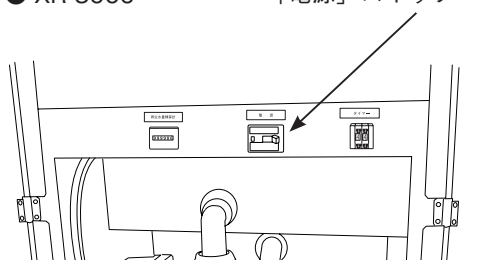
3-4-1　停電時の作業

突然に電源が切れた場合は、復旧後のトラブルを防ぐために、電源スイッチを切っておきます。

● XR-2000



● XR-5000

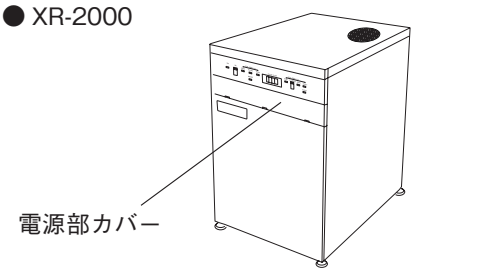


1　「電源」スイッチを「切」にし、電源を OFF にします。

・XR-2000 の場合は、電源部カバーを開いて、電源を OFF にします。

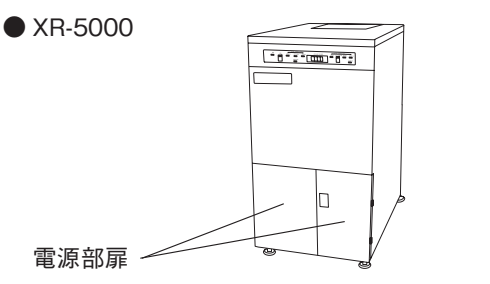
・XR-5000 の場合は、電源部扉を開いて、電源を OFF にします。

● XR-2000



2　電源部カバーまたは電源部扉を閉じます。

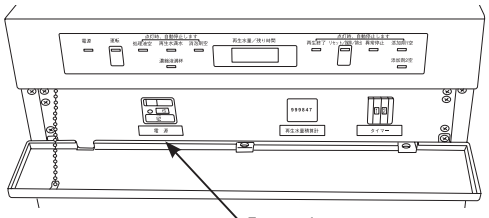
● XR-5000



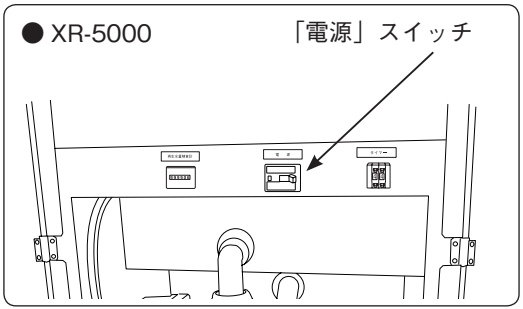
3-4-2　復旧後の作業

停電の復旧後は、濃縮釜の濃縮液を手動排出後、通常の起動手順を行ないます。

● XR-2000



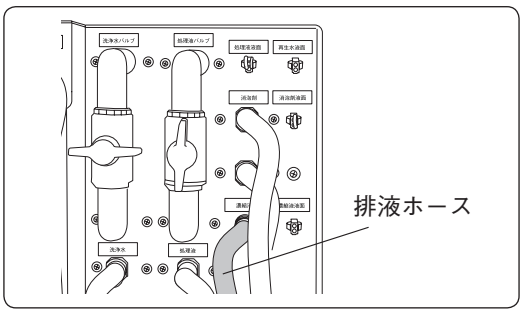
● XR-5000



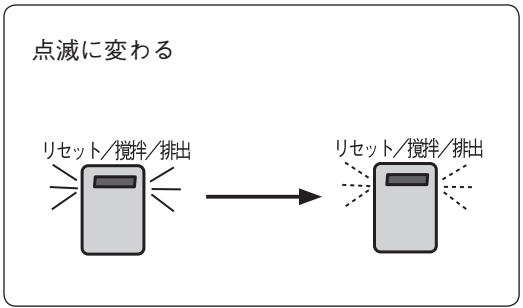
1 停電が復旧したら、電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認し、「電源」スイッチを「入」にして、電源を ON にします。

・XR-2000 の場合は、電源部カバーを開いて、電源を ON にします。(「電源」ランプ点灯)。

・XR-5000 の場合は、電源部扉を開いて、電源を ON にします（「電源」ランプ点灯)。



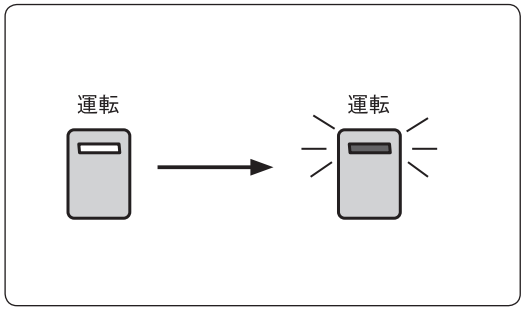
2 濃縮液タンクが排液ホースと接続されていることを確認します。



3 「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチを 2 秒以上押し続けて、濃縮液を排出します。

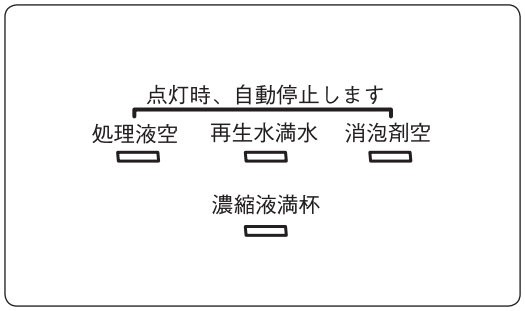
「リセット / 撹拌 / 排出」スイッチのランプが点滅に変わり、約 1 分経過したら、排出は終了です。

重要： 濃縮液タンクをご使用の場合は、タンクが空であることを確認してください。
タンクが一杯になると、濃縮液満杯エラーになります。



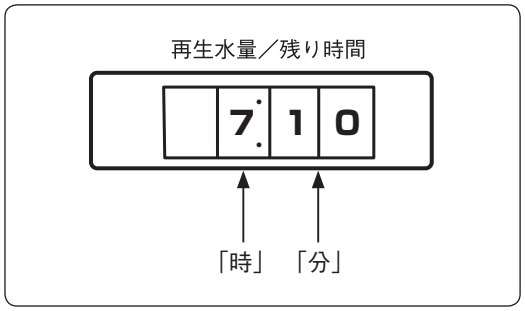
4 「運転」スイッチを押して、装置の運転を開始します。

「運転」スイッチのランプが点灯します。

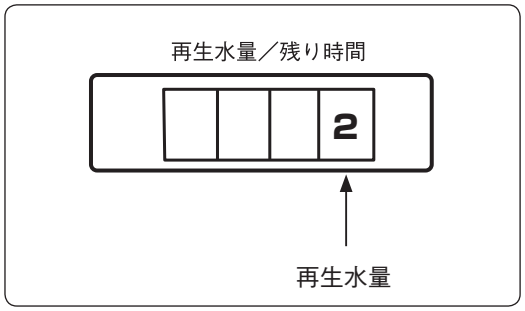


6 以下のランプが消灯していることを確認します。

・「処理液空」ランプ
・「再生水満水」ランプ
・「消泡剤空」ランプ
・「濃縮液満杯」ランプ



7 操作パネルのディスプレイに「再生水量」と「運転残り時間」が交互に表示されることを確認します。



8 これで、装置が自動的に廃液の処理を開始します。約 20 分経過すると、再生水の生成が開始されます。